3

續浪華抄

西村醉香

4

君がためふたたび見じと誓ひたる浪華津に
来てまた人を恋ふ

少女あまたありてやさしきことを言ふ浪華
はわれにうれしきところ

浪華津の赤き灯影のもとにして人恋ふる身
となりにけりしな

君がため男ごころのいまさらに燃えざらま
しと思ひしものを

やさしかりしこころをもてばをとめごのいの
ちいとしむ身となりにけり

よそめにはつれなきさまもしたまふやあな
けうとかゝ恋をすゝとて

密事(みそかごと)こころにもてばまはゆかり(井)めゝ卓の
人の おもはれ おもはれ

いささかのうれしもなげにふゝまゝゝそのの
夜の君を憎しと思ふ

おもしろし君とゆくとき夏の夜の道(海場)の
海場 ある きも

海場より海場へ(夢)くゝ好きあゝき恋の道化
もおもしろきかな